

以下のとおり機能追加・機能改善が行われました。

NVR500 Rev. 11. 00. 35 からの変更点

■機能追加

[1] L2TP/IPsec に対応した。

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/l2tp_ipsec/index.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

なお、IPsec による LAN 間接続 VPN および L2TPv3 を用いた L2VPN には対応していません。

[2] RADIUS を使用したログインユーザーの管理機能を追加した。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/login-radius/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[3] NGN 網接続時の RADIUS アカウンティングに対応した。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/ngn/ngn-radius-account/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[4] データコネク ト RADIUS 認証機能に対応した。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/ngn/ngn-radius-auth/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[5] モバイルインターネット機能で、以下のデータ通信端末に対応した。

- au Speed USB STICK U03 (モデムモード)

- グリーンハウス GH-UDG-MCLTED

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/mobile-internet/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

■仕様変更

[1] TCP セッションの MSS 制限の設定をする以下のコマンドで、初期値を off から auto に変更した。

- ip INTERFACE tcp mss limit

- ip pp tcp mss limit

- ip tunnel tcp mss limit

- ipv6 INTERFACE tcp mss limit

- ipv6 pp tcp mss limit

- ipv6 tunnel tcp mss limit

[2] 全ノードマルチキャストアドレス (ff02::1)、および全ルーターマルチキャストアドレス (ff02::2) 宛に ping6 コマンドを実行したとき、ルーター自身も応答を返すようにした。

[3] dhcp scope コマンドを実行したとき、関連する予約アドレスとオプションの設定情報が消去されないようにした。

[4] 以下のコマンドで複数の相手先番号を指定できるようにした。

- pp enable
- pp disable
- tunnel enable
- tunnel disable

○相手先の使用許可の設定

[書式]

```
pp enable PEER_NUM [PEER_NUM ...]  
no pp enable PEER_NUM
```

[設定値及び初期値]

PEER_NUM

[設定値] :

設定値	説明
番号	相手先情報番号
番号 1-番号 2	番号 1 から番号 2 までの相手先情報番号 ★
番号 1-	番号 1 以上のすべての相手先情報番号 ★
-番号 1	番号 1 以下のすべての相手先情報番号 ★
anonymous	anonymous インターフェース
all	すべての相手先情報番号

[初期値] : -

[説明]

相手先を使用できる状態にする。工場出荷時、すべての相手先は disable 状態なので、使用する場合は必ずこのコマンドで enable 状態にしなければならない。複数指定した場合には、その全てで使用できる状態になる。★

[ノート]

必ず、1. pp disable、2. disconnect、3. pp の設定変更、4. pp enable、5. connect の手順を踏んで設定を変更する。

pp enable コマンドを実行すると内部情報の初期化が行われる。pp の設定変更の有無に関わらず、pp が接続中に pp enable を実行すると、内部情報の初期化により、pp に紐付けられている tunnel 等が切断される場合がある。

○相手先の使用不許可の設定

[書式]

```
pp disable PEER_NUM [PEER_NUM ...]
```

[設定値及び初期値]

PEER_num

[設定値] :

設定値	説明
番号	相手先情報番号
番号1-番号2	番号1から番号2までの相手先情報番号 ★
番号1-	番号1以上のすべての相手先情報番号 ★
-番号1	番号1以下のすべての相手先情報番号 ★
anonymous	anonymous インターフェース
all	すべての相手先情報番号

[初期値] : -

[説明]

相手先を使用できない状態にする。

相手先の設定を行う場合は disable 状態であることが望ましい。

複数指定した場合には、その全てで使用できない状態になる。★

○トンネルインターフェースの使用許可の設定

[書式]

```
tunnel enable TUNNEL_NUM [TUNNEL_NUM ...]
```

```
no tunnel enable TUNNEL_NUM
```

[設定値及び初期値]

TUNNEL_NUM

[設定値] :

設定値	説明
番号	トンネルインターフェース番号
番号1-番号2	番号1から番号2までのトンネルインターフェース番号 ★

番号 1-	番号 1 以上のすべてのトンネルインターフェース番号 ★
-番号 1	番号 1 以下のすべてのトンネルインターフェース番号 ★
all	すべてのトンネルインターフェース

[初期値] : -

[説明]

トンネルインターフェースを使用できる状態にする。

工場出荷時は、すべてのトンネルインターフェースは disable 状態であり、使用する場合は本コマンドにより、インターフェースを有効にしなければならない。複数指定した場合には、その全てで使用できる状態になる。★

○トンネルインターフェースの使用不許可の設定

[書式]

tunnel disable TUNNEL_NUM [TUNNEL_NUM ...]

[設定値及び初期値]

TUNNEL_NUM

[設定値] :

設定値	説明
番号	トンネルインターフェース番号
番号 1-番号 2	番号 1 から番号 2 までのトンネルインターフェース番号 ★
番号 1-	番号 1 以上のすべてのトンネルインターフェース番号 ★
-番号 1	番号 1 以下のすべてのトンネルインターフェース番号 ★
all	すべてのトンネルインターフェース

[初期値] : -

[説明]

トンネルインターフェースを使用できない状態にする。

トンネル先の設定を行う場合は、disable 状態で行うのが望ましい。

複数指定した場合には、その全てで使用できない状態になる。★

[5] ip route コマンドで宛先に 0.0.0.0/0 を指定した場合、default と表示されるようにした。

■バグ修正

[1] 通信中に IPIP トンネルの設定を変更するとリブートすることがあるバグを修正した。

[2] `pp always-on` コマンドが `on` に設定されている PP インターフェースが存在し、当該 PP インターフェースで自動接続の確立に失敗したとき、ごく稀にリブートすることがあるバグを修正した。

[3] `ip INTERFACE tcp mss limit` コマンド(初期値 `off`)に `off` 以外の値を設定しているとき、不正なフォーマットのウィンドウスケールオプションを含んだ TCP パケットを受信するとリブートすることがあるバグを修正した。

Rev. 11.00.35 でのみ発生する。

[4] モバイルインターネット機能で、データ通信端末へのデータまたはコマンドの送受信に失敗したとき、リブートすることがあるバグを修正した。

[5] `dhcp client option` コマンドでパラメーターが足りないときにリブートするバグを修正した。また、`no dhcp client option` コマンドでパラメーターが足りないときのエラーメッセージを修正した。

[6] `ipv6 route` コマンドで、宛先に `::/0` を指定したときにリブートするバグを修正した。

[7] `analog sip arrive myaddress` コマンド設定で、SIP アドレスを入力せずにコマンドを実行すると、リブートしたり間違っただエラーが表示されるバグを修正した。

[8] SIP 通信中の呼に対して `OPTIONS` リクエストを受信したときにレスポンスを返すと、メモリーリークが発生するバグを修正した。

[9] `dhcp scope bind` コマンドでクライアント ID を使用する設定を行ったあと、その設定を削除するとメモリーリークが発生するバグを修正した。

[10] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、モバイル端末からの自動発信処理が行なわれないことがあるバグを修正した。

[11] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、不要な発呼動作が行われてしまうことがあるバグを修正した。

[12] TEL ポートに繋がった機器から発信し、発信放棄と着信側のオフフックが同時に発生すると、機器によっては発信側で着信があるまでそれ以降の発信ができなくなることがあるバグを修正した。

[13] ファストパスが有効の状態では IPIP トンネリングによる通信を行っているとき、`tunnel endpoint address` コマンドでトンネル端点のローカルアドレスを変更しても、設定変更前のローカルアドレスに従ってファストパスによる転送処理が実行されてしまうバグを修正した。

[14] NGN への接続で、DHCP の更新が発生したときに、DHCP により生成されたデフォルト経路が削除されることがあるバグを修正した。通常はプロバイダー等を経由したインターネットへのデフォルト経路が静的に設定されているために通信に影響はない。NGN 網を介した通信は、DHCP オプションで通知されている経路があるため、この問題が発生しても通信に影響はない。

[15] dhcp client release linkdown コマンドが on に設定されているとき、同コマンドのタイマー値よりも長くリンクダウンしたにもかかわらず、経路情報等が削除されないバグを修正した。本バグにより、リンクアップ後に新たに DHCP サーバーから得た経路情報が反映されないことがあった。

[16] NAT/IP マスカレード機能で、FTP の PORT コマンドに記述される文字列が 001 や 099 のように 1~2 桁の数字が 3 文字で記述された場合に、ポート番号を間違った数値に書き換えてしまうバグを修正した。

[17] イーサネットフィルター機能で DHCP 予約情報を使用しているとき、dhcp scope bind コマンドの TYPE オプションを ethernet から変更してもイーサネットフィルターが継続して動作してしまうバグを修正した。

[18] かんたん設定ページにアクセスしたとき、本来すぐに削除されるべき TCP のセッションが数分間削除されずに残るバグを修正した。

Rev. 11. 00. 35 でのみ発生する。

[19] 以下のコマンドで、結果が 2000ms 以上と誤表示されることがあるバグを修正した

- traceroute
- traceroute6

[20] ip INTERFACE intrusion detection threshold コマンドが入力できるバグを修正した。

[21] 以下の条件をすべて満たすとき、analog extension machine-id コマンドを設定できないことがあるバグを修正した。

- カスケード接続で 9 台接続している
- アナログ親機モードで動作している
- 機器番号を設定していないアナログ子機に対して機器番号を設定しようとする

[22] 以下のコマンドで不正な入力したときのエラーメッセージを修正した。

- no ip keepalive
- switch control function set macaddress-aging-timer

[23] ipv6 INTERFACE mld コマンドでパラメーターチェックの不備を修正した。

[24] 以下のコマンドヘルプの誤記を修正した。

- clear nat descriptor dynamic
- connect
- pp bind
- switch control function get mirroring-dest
- switch control function get mirroring-use
- switch control function get status-fan-rpm

[25] かんたん設定ページの[プロバイダ情報の設定]から以下のプロバイダを登録するとき、ユーザーID とパスワードに特定の文字列を入力すると、設定内容の確認ページに入力した文字列が表示されないことがあるバグを修正した。

- PPPoE を用いる端末型ブロードバンド接続(フレッツ 光ネクスト、B フレッツなど)

- モバイルインターネット接続
- 定額課金型 ISDN 回線端末型接続(フレッツ・ISDN)
- 従量課金型 ISDN 回線端末型接続
- フレッツ 光ネクストにおけるインターネット(IPv6 PPPoE)接続

[26] かんたん設定ページの[詳細設定と情報]-[VPN 接続の設定]の以下のページで、接続先の IP アドレスを固定割り当てにして複数個設定するとき、空白の入力欄を間に挟んでいると、空白の入力欄よりも後の IP アドレスが設定されないバグを修正した。

- L2TP/IPsec を使用したリモートアクセス VPN サーバー (Anonymous)
- PPTP を使用したパスワード認証のリモートアクセス VPN サーバ (Anonymous)

[27] かんたん設定ページの[詳細設定と情報]-[VPN 接続の設定]で、以下の VPN 接続を追加または修正するとき、切断タイマ関連の設定で「タイマで通信の有無を監視して自動切断をする」を選択して不正な値を入力してもエラーにならないバグを修正した。

- PPTP を使用したネットワーク型 LAN 間接続 VPN
- PPTP を使用したパスワード認証のリモートアクセス VPN サーバ (PP)
- PPTP を使用したパスワード認証のリモートアクセス VPN サーバー (anonymous)

[28] 外部メモリー内の CONFIG ファイルから起動し、外部メモリーを抜いた状態でかんたん設定ページから設定を変更したとき、保存先を選択する警告ページの[確認]ボタンが表示されないバグを修正した。

Rev. 11. 00. 25 以降で発生する。

[29] スイッチ制御 GUI の VLAN 設定画面で、SWX2200 以外のヤマハスイッチ配下に接続された SWX2200 またはヤマハ無線 AP のポートをクリックして VLAN グループから外そうとすると、VLAN グループに参加している他のポートも VLAN グループから外されてしまうことがあるバグを修正した。

[30] スイッチ制御 GUI で、SWX2300 シリーズの直下に接続されたヤマハスイッチに対してバックアップ経路を設定するためのボタンが表示されるバグを修正した。

[31] スイッチ制御 GUI で、SWX2200-8PoE のポート 8 の給電状態として常に給電を行わない状態が表示されるバグを修正した。

Rev. 11. 00. 35 でのみ発生する。

以上